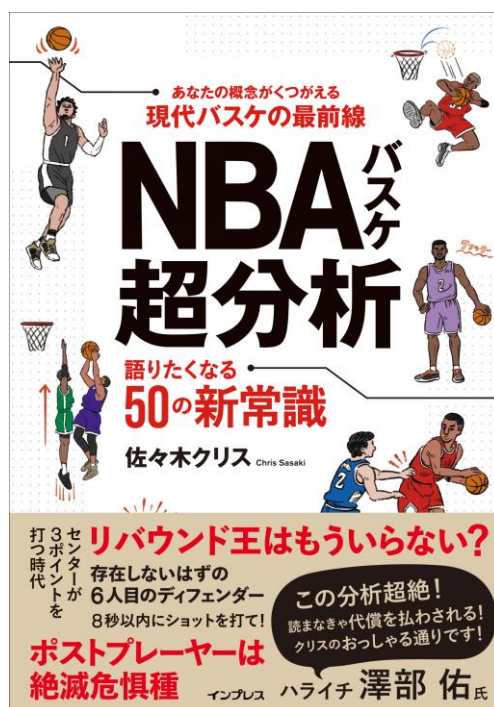


各 位

2022年9月28日  
株式会社インプレス

バスケットボールアナリスト佐々木クリス氏の初の単著  
『NBA バスケ超分析 語りたくなる 50の新常識』を9月26日（月）に発売。  
出版記念トークイベントも開催

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小川 亨）は、データをもとに現代バスケットを解説した『NBA バスケ超分析 語りたくなる50の新常識』を2022年9月26日（月）に発売しました。



### ■バスケット観戦がさらに面白くなる50の新常識を解説

渡邊雄太選手や八村塁選手などの活躍もあり、日本でも「NBA」の関心が高まっています。また、昨今のNBAは過去と比べて戦術やプレーが変わり、より多彩な攻防が繰り広げられています。『NBA バスケ超分析 語りたくなる50の新常識』は、そんなNBAで展開されているプレーや戦術を深掘りした書籍です。1つの常識を読むごとに、NBAがさらに好きになり、バスケットの観戦がより面白くなります。

### ■読めばもっとバスケット観戦が好きになる！ データをもとに現代バスケットを大解剖

本書の特徴は、ショットの成功率やリバウンドの獲得数といったデータを用いて説明している点です。「リバウンドを制する者がゲームを制するのか」「先に110得点獲得したチームが勝つ?」「なぜ3ポイントショットの数が爆発的に増加したのか」などの理由や変化の背景を、佐々木クリス氏がバスケットボールアナリストの視点で解説しています。また、図やイラストを豊富に掲載して分かりやすく説明しているため、NBA好きやバスケットファンだけでなく、過去にテレビや漫画でバスケットを観ていた人も楽しんで読んでもいただける1冊となっています。

# NO. 01

## ビッグバン! 「3ポイントは水もの」はもう古い?

### 歴代最高のシューターから見る3ポイントショット数の上昇

史上最高のシュート力を誇るガードコンビ、ステフェン・カリーとクレイ・トンブソン。2人が決めるショットの数々は水しぶきのようにネットが跳ね上がって吸い込まれていくことから「スプラッシュブラザーズ」の愛称で親しまれ、2015年から2022年までの8年間で4度の王座を獲得した。中でも名実ともにNBAの顔の1人であるカリーはニューヨーク現地時間の2021年12月14日、それまでの3ポイント累計成功記録2973本を抜き去り、新記録を樹立。2022年5月現在3117本まで伸ばしている。

カリー：789試合終了時点で2977本  
アレン：引退した1300試合までに2973本

しかし、驚きなのは本数だけではない。記録が更新されるまでトップに君臨したレイ・アレンが1300試合に出場して達成したのに対して、カリーは789試合しか必要としなかったのだ。

そんな史上最高のシューター、カリー。実は彼の能力ならもっと早く記録を塗り替えられた可能性もある。NBAデビューから13シーズンプレーしてきたが、1試合あたりに放つ3ポイントの数はキャリアを重ねるとともに圧倒的に増加したのだ。彼ほどのシューターでありながらシーズンを通じて1試合あたり5本以上放つようになったのは、デビューから4シーズン目。1試合あたり10本を初めて超えたのはキャリア7年目の2015-16シーズンで、逆にバスケットボール選手として運動能力のピークを迎える目安の30歳を超え、33歳になった2022年現在で12本近く放つ。



図表1-1 カリーの1試合あたりのシーズン別3ポイント試験数

シーズン	3ポイント平均試験数
2009-10	4.8
2010-11	4.6
2011-12	4.7
2012-13	7.7
2013-14	7.9
2014-15	8.1
2015-16	11.2
2016-17	10.0
2017-18	9.8
2018-19	11.7
2019-20	9.8
2020-21	12.7
2021-22	11.7

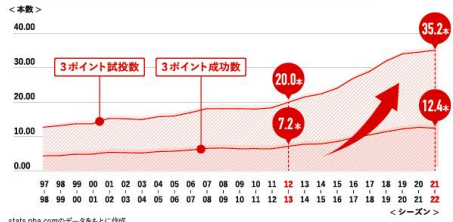
2015-16シーズンから10本を超えた

1試合に1人で3ポイントショットを10本以上ってひと昔前は考えられなかったよね!



この事実はNBA、そしてバスケットボール界全体が3ポイントショットの持つ魔力に気づいたことと関連がある。NBAにおける3ポイントショットの過去25シーズンに渡る推移は図表1-2の通り。

図表1-2 過去25シーズンの1試合あたりの3ポイント試験数と成功率(リーグ全体の平均)



2012-13シーズンからNBAのオフェンスが様変わりしているのが分かります! カリーも1試合あたり5本以上放つようになったのは2012-13シーズンからです。



各項目は数ページのコンパクトな構成で収録。気になる内容からお読みいただけます。

# NO. 38

## なぜ寝ても覚めても ピック&ロールなのか

### ピック&ロールは究極の「数的優位」製造システム

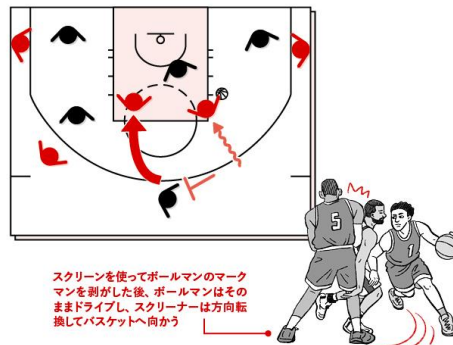
現代のNBAはピック&ロールに代表される「ポールのスクリーン」をオフェンスの主な戦術として展開するチームがほとんどだ。その理由はオフェンスが得点を生み出すために実現したい「数的優位」の状況を最も効率的に作り出せるからだ。

数的優位とは瞬間的にコート上で生じる4対3や3対2など、オフェンスプレイヤーの人数がディフェンスプレイヤーの人数を上回ることを指す。NBAではコート上で2対1が生まれれば、かなりの高確率でショットが決まる。オフェンスが目指す究極の形は1対0を作ることだ。

1990年代などは1対1の状況から高さの優位性やスピードの優位性など個人の力で局面を打開することを善としていた。一方、「ポールのスクリーン」はコートにいる5人がスペースを取りながら運動し、より効率的に「数的優位」を演出できる。これまで本書で見てきたNBAにおけるオフェンスプレイングの高まりが、「ベース&スペース」とピック&ロールを中心としたセットオフェンスの効果を何よりも雄弁に物語っていると思う。

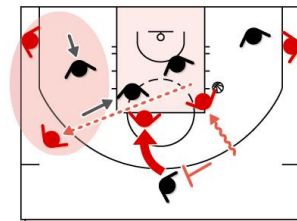
それではピック&ロールを仕掛けて数的優位が生まれる状況を説明していこう。まず、図表38-1のようにポールのスクリーンを活用したボールハンドラーがペイント内に侵入するとペイント内の2対1が実現可能だ。

図表38-1 ピック&ロールからボールマンがペイントへ侵入



ここで侵入してくるボールハンドラーに対してディフェンス側もレイアップは許したくない。しかしペイント内の2対1の状況は、オフェンスがディフェンスを攻略するのに十分すぎるスペースがあるため、オフェンス側が決定的に優位。そこでディフェンス側がさらに人数を投じて守ってくると、図表38-2のような状況に変化する。

図表38-2 外線で生まれる数的優位



プレーヤーの動きも図やイラストを用いて分かりやすく解説しています。

## ■10月29日（土）に出版記念トークイベントを開催

『NBAバスケット超分析 語りたくなる50の新常識』の発売を記念して、トークイベントを開催します。司会・進行役には、大のNBA好きとして知られる学者芸人サンキュータツオさんが登場。書籍の制作秘話や、バスケットの攻防がより深く見える観戦のノウハウを、佐々木クリスさんとサンキュータツオさんの対談形式でお届けします。

また、トークイベントの後には、著者の佐々木クリスさんによるサイン会を実施。有料のトークイベントに参加いただいた方には、サイン本と本書限定のオリジナル付箋を当日お渡しします。さらに、トークイベントの様子は佐々木クリス氏のYouTubeチャンネルで生配信いたします。YouTube上での生配信は事前登録なしで、どなたでも視聴いただけます。

開催日時：2022年10月29日（土）14:30～16:40

会場：ゲンロンカフェ

〒141-0031東京都品川区西五反田1-11-9 司ビル6F

参加費：税込5,500円※参加費には『NBAバスケット超分析 語りたくなる50の新常識』（サイン入り）書籍代、税込2,090円が含まれています

定員：60名※お申し込み多数の際は抽選とさせていただきます

主催：株式会社インプレス

◇イベントの詳細・申し込みページ

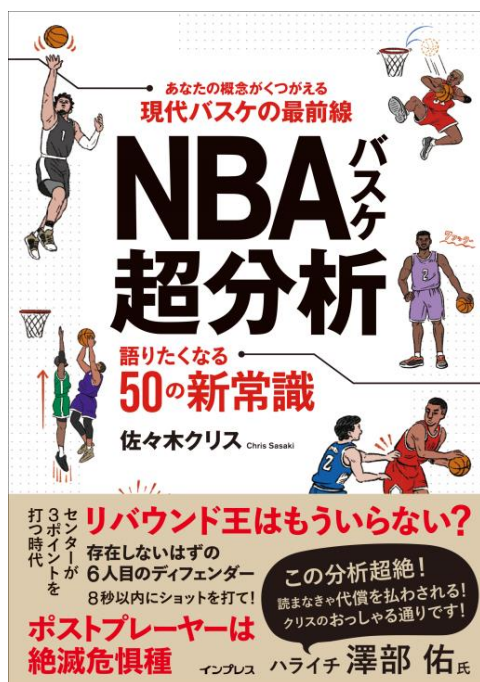
<https://book.impress.co.jp/pr/form/event221029.html>

トークイベントの生配信は佐々木クリスさんのYouTubeチャンネルでご視聴いただけます

◇YouTubeチャンネル：佐々木クリス

<https://www.youtube.com/ChrisSasaki2020>

## ■書籍情報



NBA バスケット超分析 語りたくなる 50 の新常識

著者：佐々木クリス

発売日：2022年9月26日（月）

判型：A5判

ページ数：264ページ

定価：2,090円（本体1,900円＋税10%）

電子版価格：2,090円（本体1,900円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01525-3

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1121101109>

◇楽天ブックスの書籍情報ページ：

<https://books.rakuten.co.jp/rb/17228334/>

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295015253/>

## ■著者プロフィール



佐々木クリス

ニューヨーク出身。NBA が選ぶアジアのインフルエンサーの一人。14歳の時に観た NBA のプレーに魅了されバスケットボールを始める。2010年に有限会社ボイスワークスに所属し、NBA 解説者を目指す。コラム執筆、中継での同時通訳等を経て 2013年に WOWOW で解説者としてデビュー。NBA ファイナルの現地取材、選手へのインタビュー経験も豊富。国内の B.LEAGUE でも公認アナリストとして解説を務め、各メディアで活躍中。

以上

---

### 【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 7,500 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向け IT 関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

### 【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自

### 【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: [pr-info@impress.co.jp](mailto:pr-info@impress.co.jp) URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。